



たけつるず 竹鶴図屏風  
こうあみ 江阿弥作

江戸時代・18世紀 当館蔵  
176.6cm×372.9cm

旧郡家村の庄屋家に伝来しました。「法橋江阿弥作(朱方印)」と落款があり、大坂天満で活躍した安村江阿弥の作です。もとは一雙(左隻と右隻で一組)であったとみられますが、左隻のみ伝わります。



くじゃくぼたんず 孔雀牡丹図屏風  
江戸時代 当館蔵 182.5cm×375.0cm



牡丹は花の王とされ、富貴の象徴でした。孔雀は美しく、日本に生息しないため珍重されました。作者は不明です。

2026. 7/11(土)~9/6(日)  
◆開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)  
◆休館日 月曜日(7/20は開館)、7/21・8/12

観覧無料

大織冠図屏風(部分)

竹鶴図屏風(部分)

# 屏風を楽しむ

楼閣山水図屏風(部分)



会場 **高槻市立しろあと歴史館**  
〒569-0075 大阪府高槻市城内町1-7 電話 072-673-3987  
◆主催 高槻市 ◆後援 歴史街道推進協議会、(公社)高槻市観光協会  
◆協力 NPO 法人高槻市文化財スタッフの会



架鷹図屏風(部分)

孔雀牡丹図屏風(部分)

【館長講座】 事前申込・参加無料  
「館蔵屏風の魅力に迫る！」  
8月28日(金)10:30~12:00  
講師 千田康治(当館館長)



【体験教室】参加無料  
「甲冑と火縄銃にふれる」  
8月8日(土)11:00~15:30  
時間内随時受付・申込不要



★館長講座申込方法  
市簡易電子申込(上の二次元コードで入る市HP内にリンクあり)、当館窓口、もしくは往復はがき(講座名・氏名・住所・電話番号、当館宛) 8月9日(日)必着

屏風は、室内にたてて風を防いだり、仕切りとするための調度です。日本の御殿や屋敷などの大規模な邸宅は畳敷きの大広間で構成されることから、可動式で室内を自由に仕切ることができる屏風は、日本家屋に適したものでした。また屏風は装飾としても活用されました。大画面に描かれた絵画には迫力があり、著名な絵師によって描かれた屏風は権力や富の象徴にもなりました。

この企画展では、しろあと歴史館が収蔵する屏風の中から、色鮮やかな絵画が描かれた作品を一室に展示します。かつて御殿や屋敷を飾った華やかな色彩美をお楽しみください。



## 高槻市立しろあと歴史館

〒569-0075 大阪府高槻市城内町1番7号  
TEL 072-673-3987

《交通》 ● 阪急京都線高槻市駅から徒歩約10分  
● JR京都線高槻駅から徒歩約15分

※ご来館には、環境にやさしい公共交通機関をご利用ください。

同時開催

高槻市立今城塚古代歴史館 企画展  
両歴史館をめぐるスタンプラリーも!

7/11~9/6 ハニワワールドへようこそ  
今城塚古墳のハニワたち



左隻第二扇



かようず 架鷹図屏風 ぶじわら まさよし 藤原正吉作 江戸時代・17世紀 当館蔵 167.6cm×378.1cm



止まり木である架(たかほこ)にたたずむ鷹狩用の鷹を描いた画を架鷹図といいます。藤原正吉は17世紀前半から半ばにかけての絵師で、確認できる作品はすべて鷹を描いています。



「御綬鷹」  
「佐渡掾藤原正吉」



左隻第一扇

宝珠を取り戻した海女を追う龍。船上で太刀を振り上げて待つ鎌足。



たいしよっかんず 大織冠図屏風 江戸時代 当館蔵 176.5cm×366.0cm



大織冠は藤原鎌足の別称で、幸若舞の曲目「大織冠」の場面を描いています。唐の太宗へ嫁いだ鎌足の娘から鎌足へ宝珠が送られます。しかし、途中で龍王に奪われてしまいます。鎌足は海女のたすけを受け、龍宮から宝珠を取り戻すことに成功しました。作者は不明です。



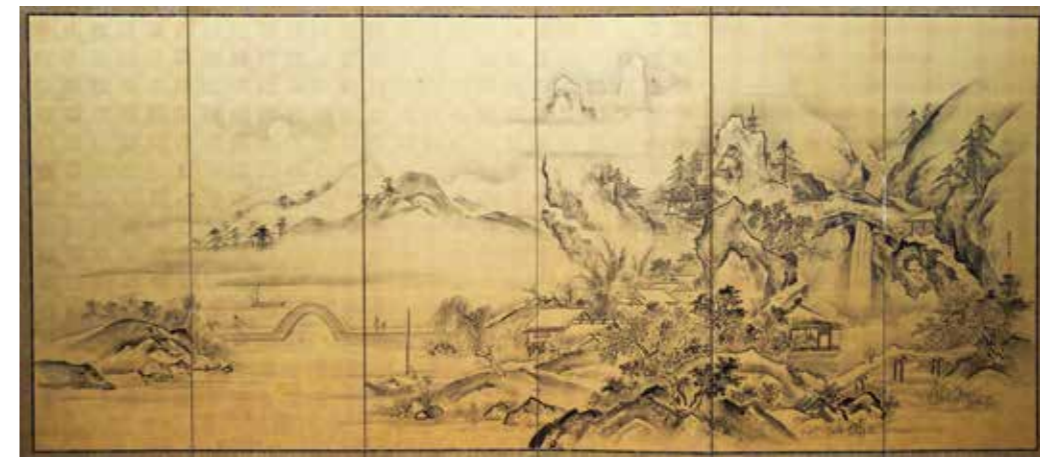
右隻第一扇  
流木から美女(龍王の一味)が現れた。彼女は宝珠を奪った。



左隻第五扇



ろうかくさんすいず 楼閣山水図屏風 いしだ ゆうてい 石田幽汀作 江戸時代・18世紀 当館蔵 170.0cm×378.0cm



雄大な自然(山水)の中の楼閣(立派な建物)を描いています。石田幽汀(1721~1786)は京都で活躍しました。鶴澤探鯨に師事し、禁裏絵師を務め、安永6年(1777)に57歳で「法眼」に叙せられました。弟子に円山応挙がいます。



右隻の落款